

誰からの栄誉を愛するか

ヨハネの福音書 12 章 37-43 節

はじめに

「ヨハネの福音書」を最初から少しずつ学んできていますが、「ヨハネの福音書」には、イエス様の奇跡が七つ書かれています。「ヨハネの福音書」では、イエス様の奇跡を「しるし」と呼んでいます。一つ目の奇跡は、水をぶどう酒に変える奇跡（ヨハネ 2：1-12）、二つ目は、死にかかっていた王室の役人の息子を癒やす奇跡（ヨハネ 4：43-54）、三つ目は、38 年も病気にかかっている人を癒やす奇跡（ヨハネ 5：1-18）、四つ目は、五つのパンと二匹の魚を増やして五千人を満腹させる奇跡（ヨハネ 6：1-15）、五つ目は、湖の上を歩く奇跡（ヨハネ 6：16-21）、六つ目は、生まれたときから目の見えない人の目を開く奇跡（ヨハネ 9：1-41）、最後の七つ目は、死んだラザロを生き返らせる奇跡（ヨハネ 11：1-57）です。イエス様は地上の生涯で、この他にも多くの奇跡を行われました。

今日の聖書箇所には、これらのイエス様の多くの奇跡を見た群衆やユダヤ人の議員たちの反応が書かれています。

1. 信じなかった

まず群衆の反応から見てみましょう。37 節には、こうあります。「**イエスがこれほど多くのしるしを彼らの目の前で行われたのに、彼らはイエスを信じなかった**」。群衆は、イエス様の多くの奇跡を見ても、イエス様を信じなかったのです。このことから分かることは、奇跡は必ずしも、人々をイエス様への信仰に導かないということです。聖書を読んでいると、私たちはどこか、目の前で奇跡が起これば、多くの人がイエス様を信じるようになると思いがちです。現代の人々も、イエス様の奇跡を目の前で見れば、また牧師が目前で不思議な奇跡を見せれば、多くの人がイエス様を信じるようになるのではないかと思います。現代の多くの人々がイエス様を信じないのは、聖書の時代のように、奇跡を目の前で見ていないからだと思うのではないのでしょうか。しかし、聖書の時代の人々も、イエス様の多くの奇跡を目の前で見ても、イエス様を信じなかったのです。奇跡は必ずしも、人々をイエス様への信仰に導かないのです。

38 節を見ると、このことは、旧約聖書のイザヤ書にすでに預言されていることでした。「**主よ。私たちが聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕はだれに現れたか**」。この 38 節の言葉は、イザヤ 53：1 からの引用です。イザヤ書 53 章は、イエス様の苦難を預言した「苦難のしもべ」と呼ばれる有名な聖書箇所です。人々は、イエス様の奇跡を見ても信

じないし、イエス様の説教を聞いても信じない、そのことはすでに旧約聖書で預言されていることであったのです。

イエス様の奇跡と同じように、私たちは、人々がイエス様の説教を目の前で聞けば、多くの人がイエス様を信じるのではないかと思うのではないのでしょうか。しかし、イエス様の説教を聞いても、人々はイエス様を信じなかったのです。奇跡は必ずしも、人々をイエス様への信仰に導きません。同じように、どんなに良い説教でも、人々をイエス様への信仰には導かないのです。イエス様ほど、最高の説教をする方はこの世にいないでしょう。しかし実際には、イエス様の説教でさえも、信じない人が多くいたのです。

2. 信じることができなかった

では、何が人をイエス様への信仰に導くのでしょうか。39-40 節を見てみましょう。**「イザヤはまた次のように言っているので、彼らは信じることができなかったのである。『主は彼らの目を見えないようにされた。また、彼らの心を頑なにされた。彼らがその目で見ること、心で理解することも、立ち返ることもないように。そして、わたしが彼らを癒すこともないように。』**」。ここには、「彼らは信じることができなかった」とあります。群衆は、イエス様を「信じなかった」のですが、実は、神様によって、目を見えないようにされ、心を頑なにされていたため「信じることができなかった」というのです。これもまた、旧約聖書のイザヤ書に預言されていることでした。この 40 節の言葉は、イザヤ 6：10 からの引用です。

人がイエス様を信じるには、神様によって目が開かれ、心が開かれなければならないのです。どんなに不思議な奇跡を見ても、どんなに素晴らしい説教を聞いても、神様がその人の目を開いて、その人の心を開いてくださらなければ、誰もイエス様を信じることはできないのです。使徒パウロが、ピリピの町で伝道している時、紫布の商人で「リディア」という女の人と出会いました。その時、聖書にはこう書いてあります。**「主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに心を留めるようにされた」**(使徒 16：14)。そうして彼女はイエス様を信じ、彼女の家族までもが洗礼を受けたのです(使徒 16：11-15)。

イエス様を信じるというのは、人間の力によるものではありません。ただ神様の恵みによるものです。どんなに良い牧師も、どんなに良い教会も、決して人をイエス様への信仰に導くことはできません。それは、神様の御手によるものなのです。私たちがなぜ今、イエス様を信じているのか。それは、神様が私たちの目を開き、私たちの心を開いてくださったからに他なりません。ただただ神様の恵みによるのです。もし皆さんの中で、イエス様を信じたいけれど、信じられない、信じたいけれど、いまいち決心がつかないという人は、ぜひ神様に祈ってみてください。「神様。私の目を開き、私の心を開いて、イエス様を信じ受け入れることができるようにしてください」と。

3. 告白しなかった

さて、イエス様の多くの奇跡を見た群衆は、イエス様を信じなかったのですが、ユダヤ

人の議員の中には、イエス様を信じる人が多くいたと 42 節に書かれています。ユダヤ人の議員とは、「サンヘドリン」と呼ばれるユダヤ人の政治と宗教を治める最高議会の議員のことです。「サンヘドリン」と呼ばれる最高議会は、イエス様を殺害することを正式に決定した議会です。しかし、その議会の議員の中にも、イエス様を信じる人が多くいたというのです。しかし 42-43 節を見ると、彼らは「**会堂から追放されないように、パリサイ人たちを気にして、告白しなかった。彼らは、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのである**」とあります。当時、議会は、イエス様をキリストであると告白する者を、会堂から追放すると決めていたのです（ヨハネ 9：22）。会堂から追放されるということは、ユダヤ人の社会から追放されることです。つまり社会的に孤立することを意味します。彼らは、イエス様を信じていたけれども、ユダヤ人の社会から追放されることを恐れて、つまり迫害を恐れて、自分がイエス様を信じていること、クリスチャンであることを告白しなかったのです。彼らは、心の中でイエス様を信じるだけで、自分がクリスチャンであることを隠して生きていたのです。なぜ彼らはそうであったのか。それは、「神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛した」からだとあります。彼らは、イエス様を信じていたのです。しかし、彼らは、神様よりも人を愛したのです。神様の御心よりも、人の目を気にしたのです。

パウロは、ローマ 10：9-10 で、このように言っています。「**もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです**」。パウロによれば、人は心で信じて、口で告白して救われるのです。信仰には、心で信じるだけでなく、口で告白することが求められるのです。その意味で、議員たちの信仰は、心で信じるだけの信仰であって、口で告白していない信仰であったのです。

ではどうしたら、イエス様を告白し、人からの栄誉よりも神様からの栄誉を愛して生きることができるのでしょうか。41 節には、こうあります。「**イザヤがこう言ったのは、イエスの栄光を見たからであり、イエスについて語ったのである**」。預言者であるイザヤは、イエス様の栄光を見て、イエス様について語ったとあります。イザヤは、神様によって預言者として召されました。その時に語られたのが、今日の聖書箇所 40 節の言葉、つまりイザヤ 6：10 の言葉でした。イザヤは、預言者として召されたけれども、その道は苦難に満ちたものでした。イザヤがいくら語っても、人々は心が頑なで神様に立ち返らないのです。人々が神様に立ち返らないけれども、御言葉を語り続けなければならない、そういう道でした。しかしイザヤは、なぜその道を歩むことができたのでしょうか。なぜ語ることをやめなかったのでしょうか。それは、「イエスの栄光を見たから」だとヨハネは言うのです。イザヤは、「苦難のしもべ」が書かれているイザヤ書 53 章で、「イエス様の栄光」を見ていたのです。「イエス様の栄光」とは何でしょうか。ヨハネ 12：23-24 で、イエス様はこう言われました。「**人の子が栄光を受ける時が来ました。まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます**」。「イエス様の栄光」とは、「イエス様の苦難」です。人々から捨てられ、十字

架で殺されるという苦難です。その「イエス様の苦難」を見ていたからこそ、イザヤは苦難に満ちた預言者としての道を歩むことができたのです。そして、人からの栄誉よりも、神様からの栄誉を愛することができたのです。

おわりに

私たちは、どうしたら、人からの栄誉よりも神様からの栄誉を愛し、人を恐れることなく、イエス様を告白できるのでしょうか。言い換えれば、どうしたら人から自由になって、ひらすら神に生きることができるのでしょうか。それは、「イエス様の苦難」を見つめることに尽きると思います。イエス様の奇跡ではなく、「イエス様の苦難」を見つめることです。つまり「イエス様の十字架」を見つめることです。

パウロは、ピリピ 1：29 でこう言いました。「**あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです**」。イエス様を信じるということは、つまりクリスチャンになるということは、イエス様のために苦しむということでもあるのです。またパウロは、使徒 14：22 で、バルナバと共にこう言っています。「**私たちは、神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならない**」。イエス様は、十字架の苦難の後に、栄光に入られました。それと同じように、イエス様を信じるクリスチャンも、苦難の後に栄光に、つまり神の国に入るのです。

私たちは、イエス様の十字架の苦難を見つめなければなりません。そうでなければ、私たちは、たとえイエス様を信じ、自分はクリスチャンだと言っても、人々を恐れて告白できず、いつまでも神様からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛するクリスチャンであり続けるのです。イエス様の十字架の苦難を深く見つめる、それこそ、人を恐れず、神様からの栄誉を愛するクリスチャンとなる道なのです。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたが遣わされたイエス様は、苦難の道を歩まれました。イエス様が説教をし、奇跡を行っても、群衆はイエス様を信じませんでした。議員の中にイエス様を信じる者は多くいましたが、社会から追放されることを恐れて告白せず、神様からの栄誉よりも人からの栄誉を愛して、心の中で信仰を留めました。イエス様は、どんなに心を痛まれたでしょう。イエス様は、そのような孤独の中で、十字架の苦難へと向かわれました。

イエス様を信じるとは、イエス様と共に苦難の道を歩むことです。イエス様と共に、苦難の後に栄光に入る道です。どうか私たちが、イエス様の奇跡よりも、イエス様の苦難を見つめることができますように。人からの栄誉よりも、神様からの栄誉を求めることができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。